

問われる正義—すべてのアスベスト被害に司法救済を！

アスベスト訴訟全面勝利めざす

1 陣は最高裁むけ、2 陣は大阪高裁むけ



控訴審弁論のあとの報告集会。
元気に署名集めを報告する原告

二陣高裁（大阪高裁第13民事部 紙浦裁判長）での控訴審第二回口頭弁論が、十一月二十七日開かれました。
「日本政府のアスベストの全面禁止は、欧米の国々と比

弁論で圧倒

二陣高裁第二回口頭弁論開かれる

日本の規制の遅れが一層明らかになり欧米諸国と比較

二陣高裁（大阪高裁第13民事部 紙浦裁判長）での控訴審第二回口頭弁論が、十一月二十七日開かれました。「日本政府のアスベストの全面禁止は、欧米の国々と比較して特別遅いわけではない」——これは国側の主張であり、一陣高裁三浦判決でも判示しています。
しかし本当は、欧米諸国で、1970年代から80年代にかけて、アスベストの低濃度ばく露の危険を回避するために、事業者に厳しい濃度規制を課していました。
その結果、欧米諸国では、アスベスト使用量が70年代から減少し続け、80年代には事実上使用できなくなっていました。しかし、日本政府はこうした濃度規制をしなかったため、1990

9・14集いに結集した団結力で、広く府民、国民に訴えて、世論を高める取り組みとして新たな公正判決署名をスタートしました。
原一男監督の「泉南被害と国賠6年間の記録映画『命て、なんぼなん？』」の上映運動と結びつけて署名運動を推進していきましょう。
高裁でなんとしても勝利することが必要であり、高裁判決までに30万の署名を提出できるよう、第一次署名集約を1月末とします。
皆様のご協力をお願いします。

あらたな公正判決署名がスタート

泉南勝たせる会ニユース

大阪泉南地域のアスベスト国家賠償訴訟を勝たせる会

第20号

2012.12

<連絡先>

泉南市六尾 595

072-483-4981

ファックス

072-484-0841

<http://www.asbestos-osaka1.sakura.ne.jp/kataseru/>

ドキュメント映画 「命て なんぼなん？—泉南アスベスト禍を闘う」

迫力の映像で、 泉南アスベスト告発

感動と怒り、生きぬいて勝利を！

原監督の泉南アスベスト訴訟記録映画 泉南アスベスト被害の実相を 告発し、たたかう人びとを励ます

●映画のあらすじにかえて

（浜田紀男さんのメモより）
この映画は、2008年7月の泉南アスベスト訴訟の原告弁護団活動から撮影がはじまっている。2006年5月に大阪地裁に提訴した第一陣訴訟は、2010年5月28日の判決で裁判所は「アスベスト被害で初めて国の責任を認め、原告らへの賠償を命じる」ものであった。工場周辺住民に対する国の責任については認めなかったが、原告勝訴の判決であった。
映画は、国が控訴するか否か、東京で待ち受ける弁護団の緊迫したショット、国の控訴に「民主党も駄目だな」という怒りの声もとらえている。
一陣訴訟の控訴審判決は、2011年8月25日、大阪高等裁判所は「悪魔に心を売った判決」と酷評される、原告逆転敗訴の不当判決をくだした。「アスベストなど有害物質の危険性が懸念されるからといって、厳しく規制すれば産業社会の発展を大きく阻害する」という人権無視、産業優先の思想を赤裸々に示すしめす



原監督に原告団から感謝の花束贈呈

「9・14関西大集会」で初公開された原一男監督のドキュメント映画「命て なんぼなん？—泉南アスベスト禍を闘う」（上映時間66分）は、感動と怒りを呼び起こし大きな反響を呼んでいます。
この映画は、先に公開された記録映画、「西村東子さん編」、「岡田陽子さん編」につづくもので、来年の2013年には、集大成した長編ドキュメンタリー映画の完成をめざして、取材・制作活動が続けられています。
迫力ある映像で、泉南アスベスト被害の実相を告発し、たたかう人々を励ます作品づくりは、これまで多くのドキュメンタリー映画を手がけてきた原監督独特のものです。
ぜひ各地で上映会を企画しましょう！（DVDの貸出については、勝たせる会・電話072・483・4981までお問い合わせください）

ものであった。映画は高裁判決の不当性を弁護団に語らすことなく、原告に寄り添い語らせる目線がすばらしい。原告が自らの言葉でその本質を糾弾する。

二陣の大阪地裁判決

逆転敗訴した一陣の控訴審判決の7ヵ月後、2012年3月28日の二陣の地裁判決は予断を許せないものであった。緊張した中で「経済的発展を理由に労働者の健康を蔑ろにすることは許されない」という勝利判決を勝ち取った喜びを、カメラは女性弁護士

健康被害の実相

アスベストによる健康被害の現状がどのようなものであるか、呼吸器官の肺への疾患として苦しみ抜く。酸素吸入器が手放せない患者も居る。疲れを癒す入浴は、人間としてほっとするひとときでもあるが、酸素吸入器は風呂場に持ち込めない。入浴中に咳き込み苦しむ原告、女性としての尊厳を配慮しながらのショットは、アスベスト被害を告発する本作品の最も印象に残るシーンとなっている。

大阪のおばちゃん

原告団の大阪のおばちゃん、とりわけ泉州のおばちゃん

んは元気で遅いのだ。大阪弁のなんとなく大衆性と親しみやすさになぐむことが出来る。公判日に原告は毎回夫の遺影を持参してくるが、それぞれ見比べて実物よりハンサムだとか若いとか会話を交わす。秘められた悲しさも覗えるが、国を相手にたたかうしただかきもある。

※ この原稿は、9・14集いで映画を観賞された浜田紀男さん（大阪シナリオ学校事務局次長）の映画解説のうち、「あらすじの紹介部分」を要約したものです。

●原一男監督のプロフィール

1945年、山口県宇部市出身。現在、大阪芸術大学映像学科教授。
主な監督作品 「さようならCP」（1973）「極私的エロス・恋歌1974」（1974）「トノリバン独立国際映画祭グランプリ受賞」「ゆきゆきて、神軍」（1982）日本映画監督協会新人賞、ベルリン映画祭カリガリ映画賞、シネマ・デュ・レール・グランプリ、報知映画賞優秀監督賞など受賞「全身小説家」（1994）キネマ旬報ベストテン1位、日本映画監督賞、毎日映画コンクール日本映画大賞など受賞「学問と情熱」（2000）教育映像祭優秀作品賞受賞

マンガ「石の綿」の原画展を開催

泉南地域のアスベスト問題がこの度マンガになりました。かみがわ出版発行「石の綿」。石綿工場全盛時の町の風景も描かれていて、「被害のことがよく分る」「あのころを思い出した」と好評です。出版を記念して、「原画展」を開くことになりました。皆さんどうぞお出かけ下さい（無料）。資料なども用意しています。

と き 1月19日（土）～26日（土）

午後1時から6時

ところ 「有朋館」 和泉砂川駅徒歩2分 P有

問合せ 原画展実行委員会 TEL 072-483-4981

9.14関西大集会に500人が集う！

9月14日、関西集いは500名の超満席。泉南アスベスト国賠訴訟、兵庫尼崎クボタ訴訟、関西建設アスベスト京都訴訟、大阪訴訟の4つの原告団・弁護団の報告と決意表明。北海道、東京からも原告団、弁護団、支援が駆けつけ、参加者からは、「関西集会だけでなく全国の団結集会だ」との声も聞かれました。
原一男監督のドキュメンタリー映画「命て、なんぼなん？—泉南アスベスト禍を闘う」が初上映。6年余りのたたかいと、8名の原告を失った悲しみと苦労が走馬灯のごとく入り混じる映像に涙し、決意を固めました。
「正義の証」勝ち取る日まで！」集会アピールを採択しました。

アスベスト訴訟の全面勝利を目指す関西大集会

全国の仲間の支援と 500人の熱気が 全面勝利へ



○鉾山公害と命をかけてたたかってきた田中正造のことを思い出しました。いつの時代でも闘わなければ庶民は生きられないと思います。反動的に進んでいきます。力を合わせて、勝利を團結して闘って行きましょう。

○もうけのために、人の命がまつにされる、企業とそれを見て見ぬふりをする政府に怒りをあらたにしました。

○知恵と力を集めて、一人一人が大切にされる社会をめざしましょう。

もうけのために命がそまつに、 見て見ぬふりをする政府に怒り

変うれしく思います。会場には、たくさんの方が集まっていた、本場に、感謝の思いで一杯です。こ

○鉾山公害と命をかけてたたかってきた田中正造のことを思い出しました。いつの時代でも闘わなければ庶民は生きられないと思います。反動的に進んでいきます。力を合わせて、勝利を團結して闘って行きましょう。

国と自治体、企業の責任 明らかにさせる闘いに必ず勝利を

○人の命より経済とアスベスト問題でも、原発でも同じこと。命が大切に社会の為にがんばっていききたいです。

○大企業と国の姿勢、絶対に変えていきましょう。共に頑張りましょう。

○病気で苦しい中、たたかわれている原告のみなさんに、

○泉南アスベスト原告です。今日の日をむかえて大切にして、政府と闘わなければならないと思いました。

○泉南アスベスト原告です。今日の日をむかえて大

の姿に、心があつくなりました。全国からたたく仲間が集ったことに力強さを感じました。国政のひどさは目に余ります。そのためにもがんばります。

○生命を守るために生命をかけて闘っている皆さんに、大変感動しました。国と自治体、企業の責任を明らかにさせる闘いに必ず勝利を

生の声も聞けて、驚くばかりです。恐ろしいです。底知れない広がり、これから始まるのかと思う。でも、原告の皆様、弁護団・支援者の皆様の頑張りのおかげで、全面勝利に向けて、少しでも応援できたと思います。

命を大切にしない施策にいきどおり もっと多くの人に知らさなくては



参加者のみなさんの感想より

“命を懸けた闘い”だからこそ

○いろいろなアスベスト訴訟、それぞれの闘いの頑張り、胸がいっぱいになりました。“命を懸けた闘い”だからこそ、支援者としての私自身に何ができるか、しなければならぬか、問うているところです。集会ありがとうございました。

○こんなにも大変な問題が身のまわりであり、苦しい苦しい体をおして裁判を闘って居られる方々のことをはじめて知りました。もっと多くの人に知らさなくては……。

○裁判所が正しい判断ができないことは、いろいろな裁判のことで見られるようになり、国がどんどん右傾化して、人間としての生きていくことを否定して、悲しい。次の世代に良い世の中を受けつがせたい。

○このように4訴訟の皆さんが共同して闘う様になれたことは大きな力になると思います。頑迷な裁判所に対して政府に対して誤りを認めさせるには、一大決起と広がりが必要だと痛感しています。

原告です。感謝の思いで一杯

○日本人ってガマンするんやね……。今こそ、すべ



切にして、政府と闘わなければならないと思いました。

○泉南アスベスト原告です。今日の日をむかえて大